

2019年2月1日

(幼保連) 認定こども園さふらん



園だより

2月号

2月の聖句

喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

ローマの信徒への手紙 12章 15節

1月は晴天続きで乾燥した毎日だったからでしょうか。始業日に3名の子どもたちがインフルエンザで欠席、その後も日を迫うごとに増えとても心配しました。お手紙で注意喚起してご家庭にもご協力頂き、ようやく収束の兆しにホッとしていますが、これからも注意深く見守っていきます。

創業者松本頼仁著「さばくはさふらんのように」の中にこんな一文があります。

{お正月を過ぎて、子どもたちが急に大きく思えてきました。体のこともありますが、心がまえのことです。しっかりしてきたという感じです。・・・この数日、年長組の各クラスで、私もお弁当持参で皆と一緒に食事をしました。その時間の落ち着いた、そして自由な、けんめいな、平和な、楽しい雰囲気には心から嬉しかったのです。}

私もこの時期になると、創業者と同じことを毎年感じます。園庭やクラスで友達と一緒に穏やかに遊ぶ子ども達、課題活動にも自ら取り組もうとする姿は、“落ち着いた、そして自由な、けんめいな、平和な、楽しい雰囲気”そのものだと思心から思うのです。

年長さんが凧を作りました。和紙を染めて竹ひごを張り、タコ糸を結ぶのですが、これがとても難しい！失敗しながらも何度も挑戦する姿に成長を感じながら・・・「今度は年中さんに教えるんだよね！」「言葉だけで教えないと、年中さんの為にならないよね」と、ちょっぴりドキドキしながら年中さんに優しく教える年長さん！言われた通りに紙を切りテープを貼る年中さん、その様子が何とも微笑ましい！一緒に凧上げをして給食も食べ良い交流の時になりました。

年長さんが年中さんに飼育と放送のやり方を教える見習いが今週よりスタート、18日からは年中さんがうさぎとチャボの飼育と帰りの放送を担います。

年少さんは新入園児へのプレゼント作り、さくらんぼさんはりんごさんと一緒に

活動を通して、それぞれ進級への思いが一層膨らむことでしょう。

健康に留意しながら元気に過ごしたいと願っています。

「喜びあう経験を豊富にすればするほど、子どもの感情のなかに、他者と悲しみを分かちあう感情が発達してきます。悲しみ、苦しみ、痛みの分かちあい。かみくだいた表現をすれば、思いやりの感情でしょう。他者を思いやる感情は、相手と悲しみを分かちあうというものです。しかしそれは喜びを分かちあう経験をしないことには絶対発達しない。」（佐々木正美著【あなたは人生に感謝できますか？】）

今月の聖句を理解するには、大人になってからではなく乳幼児期にどれだけ多くの笑顔を注がれ、喜びを共有できたかが大切なのだと切に思います。

2月の園だよりから

園長 早坂 悦子

幼稚園の登園時に門で子ども達を迎え、朝早いナーサリーの子ども達とは、クラスに行き笑顔で挨拶を交わすことが、私にとって大切な日課になっています。

顔を見ると手を差し伸べてくるYちゃんT君、「おはよー！」と返せるようになったAちゃん・・・うさぎさんの子ども達の表情が豊かになったと、とても嬉しいです。保育士との信頼関係も深まり、友とのやり取りも随分楽しめるようになりました。

先日りんごさんの部屋でうさぎさんも一緒に食事をしました。何時もより大人しいうさぎさん、お兄さんお姉さんらしく見えたりんごさん！双方にとって程よい緊張感が漂い、こんな触れ合いを通して進級への思いが芽生えるのではないのでしょうか？

まだまだ寒い日もあることでしょう。幼稚園ではインフルエンザでの欠席も多く体調には充分注意して暖かい春を待ちたいです。

佐々木正美著「あなたは人生に感謝できますか？」の中に“喜びを分かちあえる子は、悲しみも分かちあえる”の一文があります。

{喜びを共有しあう感情がやがて、ずっと大きくなったとき、幸福を共有しようという意欲になります。その芽が0歳から2歳のころに心の中に育っているのです・・・喜びあう経験を豊富にすればするほど、子どもの感情の中に、他者と悲しみを分かちあう感情が発達してきます・・・他者を思いやる感情は相手と悲しみを分かちあうというものです。しかしそれは、喜びを分かちあう経験をしないことには絶対に発達しないのです。}

今月の聖句、“喜ぶ人と共に喜ぶ”感情は、乳幼児期に母親や周りの大人が笑いかけることで喜びの感情が生まれ、人を信じる芽が育つのです。保育の仕事の重要な部分はこのことだといっても過言ではありません。泣いている子どもがいたら、ティッシュを持って行ったり、頭をなぜたりが自然に出来るようになる子ども達に心が温かくなります。いろんな場面でそんな体験を重ねていくことが大切だと思います。

2月のナーサリーだよりから

園長 早坂 悦子